

6歳の子供が、「多様性を教えるために」ゲイのラブレター を書かされる

英国の小学校が子供たちにゲイのラブレターを書くこと教える

【訳者注】こういった問題については、この他にもいろんな記事があり、男児が女装し化粧して歩いている写真などは胸が悪くなるので、ほとんど取り上げていないが、これ（昨年10月のもの）はやはり、今論じているダーウィン進化論の問題につながるもので、取り上げることにした。

この日本でも行われている、男女の区別をなくそうとする運動は、自然に（すなわち創造者によって）設けられている大切なケジメを、失くそうとすることで、サルと人間の間に区別などない、“進化の飛躍”などありえないと、（ドーキンズさえ認める）事実を無視する、ダーウィニストの主張と同じである。

20世紀の有名な唯物論者カール・セーガンは、男女の区別は進化の途中で“偶然”できたものにすぎないと言った。そしてそれを自分の都合によって（実は他者の都合によって）、今でも信じている人たちが、こういう運動をしているのである。そういう人たちは、男女の区別など「流動的な」ものだと言う。ダーウィニストが、あらゆる生物が一方向的に、ケジメなく流動していると主張するのと同じである。

彼らはおそらく、「神の創造」などと、宗教教育をしてはいけないと言うのだろう。彼らは、宇宙に内在するインテリジェンス仮説も、あらゆる物理常数が最初から生命を産み出すように微調整されている事実も、それを認めるなら、宗教教育になるので教えないのだろうか？ 初めにロゴスがあり、アイデアがあったと考えることも、馬鹿げた宗教なのだろうか？ デイヴィッド・ウィルコックが自分のウェブサイトを Divine Cosmos（神の宇宙）と呼ぶのも、馬鹿げた宗教なのか？ まあ、特に日本の唯物論者の方々には、次世代のために、彼らが世界に後れを取らないように、いろいろ考えていただきたい。

Jay Greenberg

October 2, 2018, www.neonnettle.com



子供たちが、「多様性をもっと受け入れる」ようになるように、同性愛のラブレターを書くことを教えられる

6歳の学童たちが、ゲイのラブレターを書くことを教えられているところを示す、英国BBCによるビデオが、社会メディア上で騒ぎを引き起こしている。

このビデオは、もともと、BBC ラジオ・マンチェスターのフェイスブック・ページにアップロードされたもので、幼い子どもたちが Bewsey Lodge 小学校で、“Prince Henry” から彼の男の召し使い “Thomas” に送るラブレターを書くのを、女性教師から教えられる場面を示している：
<https://www.facebook.com/bbcmanchester/videos/530426800704457/>
<https://www.facebook.com/bbcmanchester/videos/primary-school-teaches-pupils-about-lgbt-relationships/530426800704457/>
http://www.bewseylodge.co.uk/learn_more/british_values_smsc/

「あなたはトマスに、彼があなたと結婚してくれることが、なぜ、素晴らしいアイデアであるかを言おうとしているのよ。」

「この学校は子供たちに、早い時期から、LGBT 関係について教えています」と、BBCのサブタイトルは、熱心にコメントしている。

「この6歳児のクラスは、ゲイの結婚について学んでいます。」

「このおとぎ話の中では、王子様が、彼の [男の] 召し使いと結婚したがついています。」

「そして子供たちは、ラブレターを書いているのです。」



子供たちは早い時期から、LGBT 関係を教えられている

セアラ・ホプソンという名のこの教師は、BBC に、子供たちは「そういう世界に入っているとしており、周囲にこの多様性があるがわかるでしょう。それで彼らは、幼いうちからそれがわかるようにするのです」と言った。

彼女は、「彼らはこの時期に、より多く受け入れることができるほど、後になって扱いが楽になります。なぜなら、子供たちは今受け入れておけば、彼らの周囲のこの多様性を、受けられるようになるからです」と説明した。

しかし、多くの社会メディア利用者は、ホプソンとビュージー・ロッジ小学校には、大いに批判的で、年齢にふさわしくない授業を行うことを非難した。

この BBC のフェイスブック掲載に対し、ユーザーは反対の意見を表明し、子供たちをこんな年齢で性的に扱い、学校の勉強の一部として、ラブレターを書かせることを批判した。

ビュージー小学校の校長だと名乗る女性の投稿者は、いくつかの意見に対してこう答えた：——「…私は、私の学校、子供たち、その家族たちのことを、とても誇りに思っている。」

「私は社会メディアについて普通はコメントしない。しかしその何人かの考えを共有せざるをえない。いかに多くの人が、我々のカリキュラムの内容を、性的なものだと言っているかを読むのは面白いことだ。

「我々はまた、人種差別、過激思想、宗教についても教え、その同じ哲学がカリキュラムのすべてに入っている。

「私は、我々が LGTB についてやろうとしていることのもつ力を、疑う人々には挑戦したい。そして、ここへやってきて、我々の子供たちの何人かに話してほしいものだ。

「彼らはあなたに尊敬について話し、もしあなたが男の子でも、学校へスカートをはいて登校したいと思うなら、それは素晴らしいことで、また、あなたが2人のママとか、2人のパパをもっている限りは素晴らしいことあり、男の子の物とか、女の子の物といったものはなく、何でもそうなのだということを、彼らはあなたに教えるでしょう。」

この学校はまた、性的に中立の制服の制度を取っており、文化的、民族主義的、宗教的、そして性的に異なったものを、非常に強調していて、そのウェブサイトの奨励するビデオは、低学年の子供たちが、平等、性的同一性 (gender identity)、その他の、社会的正義の問題を強調している。<https://youtu.be/ENbkq1u1R2Q>

——以上